



動き始めた
カーボンニュートラル1.0。
環境への取り組みは
新たなステージへ。

脱炭素社会への目標

カーボンニュートラルが世界中でうたわれるようになり、環境への取り組みは新たなステージに移行しています。

日本政府が発表した「グリーン成長戦略」では、化石燃料に代わる再生可能エネルギーでの発電比率を50～60%程度まで引き上げることを目標にし、ZEHなどの普及により家庭で生産するクリーンエネルギーを活用することで、CO₂排出を抑えながら経済にも貢献するよう示されています。

自家発電・自家消費があたりまえの時代に

新築時の太陽光発電の設置義務化や、蓄電システム・電気自動車を購入する際の補助金制度など、目標達成のためのさまざまな施策が検討されています。

海外では一足早く、アメリカのカリフォルニア州ですべての新築住宅に太陽光発電の設置が法律で義務づけられています。今後、ほかの州も追随することが予想されています。

太陽光発電やZEHといった取り組みがもはや先進的ではなく、日本でもあたりまえのこととされる時代がやってきました。